

# 令和5年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 泉台 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

##### 教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 児童質問紙調査

##### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

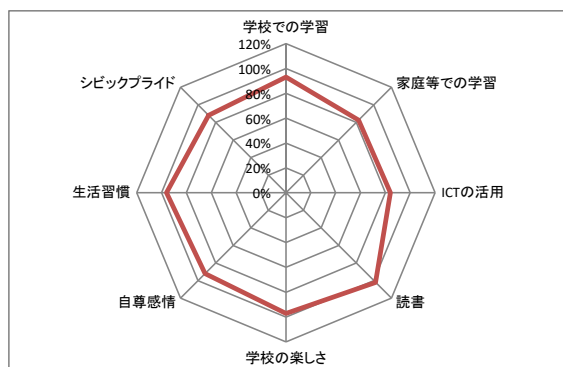
#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

## (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を下回っていた。特に思考力、判断力、表現力等に関わるA話すこと・聞くことB書くことC読むことの項目が有意に下がっている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文章の種類とその特徴の理解についての問いには、全国平均を上回っていた。	
	努力が必要な問題	目的に応じて文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付ける。文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができる。目的や意図に応じて話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を下回っていた。特にA数と計算C変化と関係Dデータの活用の項目が有意に下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	高さが等しい三角形について底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、説明することについては全国平均を上回っていた。	
	努力が必要な問題	図形の意味や性質の理解、割合についての理解、二次元の表から条件に合う数値を読み取る。示されたグラフと複数のグラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を使って説明する。	

## 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「友達関係に満足しているか」「人の役に立つ人間になりたいか」との問いに対して約90%の児童生徒が肯定的に回答している。</li> <li>・主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「わかった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。</li> <li>・「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、個に応じた指導の場面や、英語の学習等でも活用できるように啓発していく。</li> </ul>

## 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

### ① 教科に関する取組

<p>自ら課題を見出し、主体的・対話的で深い学びが実現する学習活動を積み重ねていく必要がある。そのために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 言語の基礎的・基本的能力を高めるためにMIMの継続実施と学習の基盤となる認知機能を高めるためにコグトレを実施していく。</li> <li>○ 漢字や計算などの基礎の定着のためICT機器の活用を図る。</li> <li>○ 思考判断表現力を高めていくために話し合い活動を充実させる。その際、話し合いの焦点化を図り、全員が参加できるようにする。</li> </ul>
---

### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭学習の意義や取り組み状況等について、学年学級通信懇談会等あらゆる機会を通じて家庭や地域に発信する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年×10分を家庭学習の時間の目安とし設定している。</li> <li>・ 3年からは、自主学習に取り組むものとし、参考となる児童の作品などを展示する。</li> </ul> </li> <li>○ 生活習慣・生活態度の見直し、改善について家庭へ働きかける。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月1回の生活アンケートを実施しそれに基づいて生活指導を行う。</li> </ul> </li> </ul>
--